

寛政の改革（出版の統制）



* 佐藤家文書 和漢260-1, 2, 3「海国兵談」

1行目に「海国兵談序」、最後の部分に「仙台 林子平蔵板」と見えます。
序文を書いたのは子平に影響を与えた「赤蝦夷風説考」の筆者工藤平助です。

解説

林子平は洋学者との交流を通じて海外事情について研究を行い、ロシアの南下政策に危機感を抱き、海防の充実を唱えるために「海国兵談」「三国通覧図説」を著しました。「海国兵談」は自ら版木を作成して刊行を始めましたが、刊行直後に松平定信による寛政の改革のなかで版木を没収されました。

寛政の改革は農村復興・都市政策・旗本御家人の救済のほか、異学（朱子学以外の学問）の禁止・風俗肅正など多岐にわたり、民間に対しては厳しい出版統制を行いました。「海国兵談」も幕府への批判と捉えられ、禁書の扱いを受けました。

左の写真の「海国兵談」は、佐藤家（萩藩士で、幕末期の民政官として有名な佐藤寛作を輩出した家。寛作は岸信介・佐藤栄作の曾祖父）に伝来したもので、版本でなく、3冊の筆写本です。



* 毛利家文庫 58絵図46「蝦夷図」

同じ林子平の「三国通覧図説」収載のものを写したと思われる蝦夷地（北海道）方面の図。写真下方が津軽で、松前以北は大きくゆがんでいます。